

「平成 28 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を実施しました

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制設備事業」の継続事業として、「平成 28 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を、平成 28 年 8 月 26 日～8 月 28 日にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて実施した。

本事業は、県立広島大学主催で、マツダ財団の協力により、2泊3日集中合宿形式で実施。

講義内容は、他大学の学生と3人一組のチームになり、米国や欧州、中国の各市場の担当者となり、その市場に合った「10年後の若者のための車」を商品企画する。

チームで、ゴールに向かい、最善の結論を導き出すために、理性的に、批判的に、意見交換を繰り返し、「議論」する。正解のない課題解決のためにどうすれば良いかを、自分たちで考え、解決方法を見つける。「正解のない課題に立ち向かう力」を身に着けることを目的としている。

自ら考え、論理立て、聞く側を納得させることは、社会で必要な力であり、そのために必要な「気付き」を与え、行動の変化を起こすことで、就業力育成に繋げている。

日 時：平成 28 年 8 月 26 日（金）～28 日（日）

場 所：マツダ本社、サテライトキャンパス広島

参加大学：県立広島大学、岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、四国大学、島根大学、広島修道大学

※平成 27 度参加大学 県立広島大学、倉敷芸術科学大学、四国大学、島根大学、鈴峯女子短期大学、広島修道大学（鈴峯女子短期大学は広島修道大学と統合するため今年度は講師のみ参加された）

参加人数：学生 24 名、マツダ財団 1 名、参加大学教職員 10 名

最 優 秀：チーム名；お姉ちゃんとピアノ コンセプト；水と共に生きる 担当市場；ヨーロッパ

講義終了後の学生のコメントを一部紹介します。

・初めて睡眠時間を削ってまでプレゼン用の資料を作成したり情報を集めたりして、とても大変だと感じた。初対面の人たちとコミュニケーションを深めながら、同じ課題について考えるという経験が今までなかったので、私の人生にとっていい刺激になったとともに、財産となった。この経験を就職活動などの今後の人生に活かしたい。

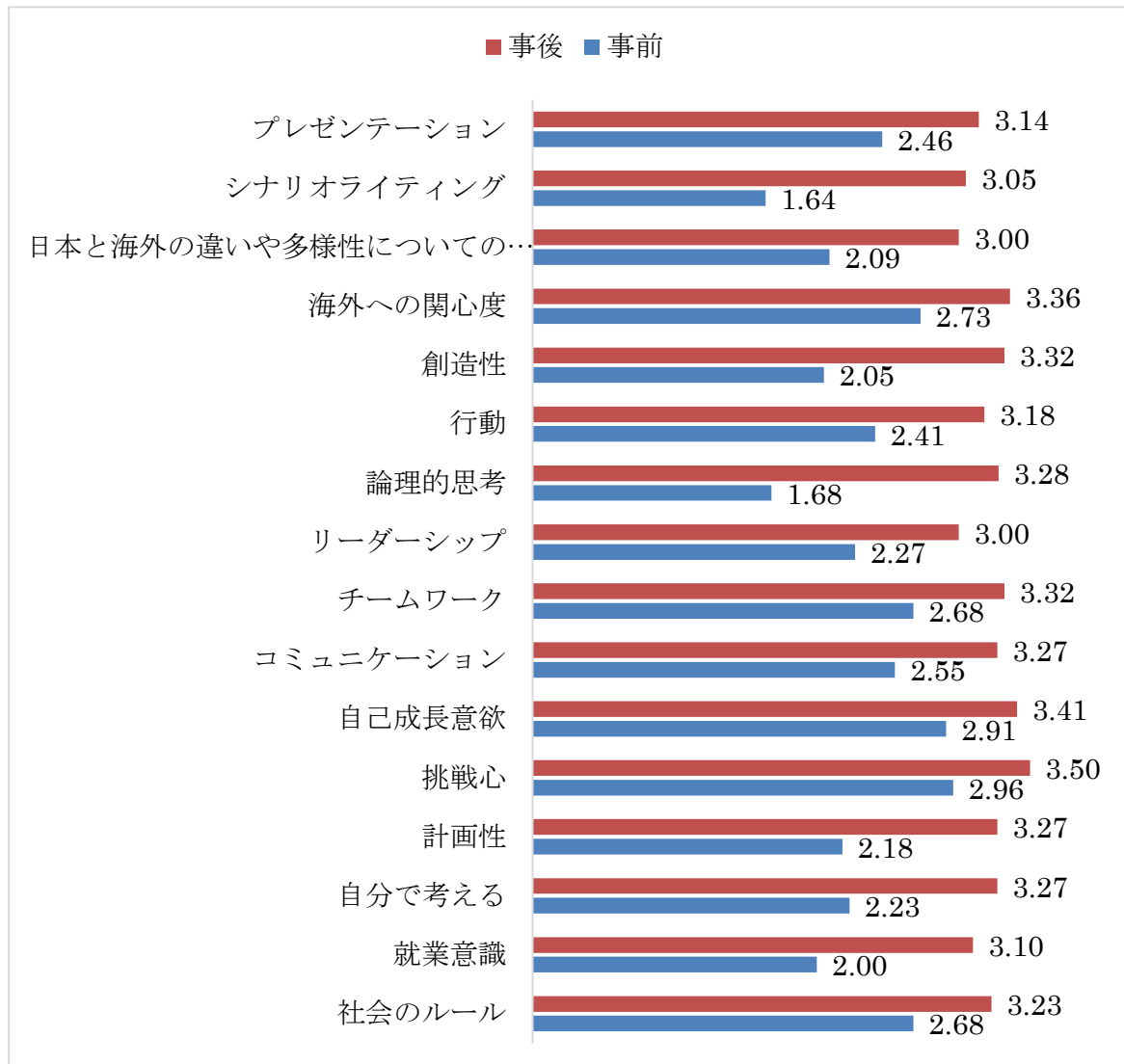
・他人に自分の思いや考えを理解してもらうためには、理由や証拠をもとに論理的に説得力ある伝え方をすることがとても重要で、それがとても難しいことだと改めて感じた。チームの中で、自分がどのように動けば、よりよい流れにチームを持っていけるのか、もっとあの時ああいえばよかったのでは…と思う場面も多く、その時その時で瞬時に状況判断して、押すところは押す、引くところは引くという行動判断ができるようになりたい。

・学校で常にクリティカルシンキングが大切だといわれて心掛けていたけれど、今回の企画は終始ロジカルに考えて、そうでないと答えが出ず、とても苦戦しました。でも、どれだけ本質を探すことが重要かもわかった。

【ルーブリック評価結果】

授業前後の伸び評価結果（4件法）

（レベル4 = 4，レベル3 = 3，レベル2 = 2，レベル1 = 1）



【マツダミュージアム見学】



【グループワークの様子】



【プレゼンの様子】



【集合写真】